

RSVワクチン（ファイザー社製 **アブリスボ**）について知っておいてほしいこと

情報源：アメリカFDA公式添付文書（2025年12月改訂）・日本PMDA公式添付文書（2025年9月改訂）・厚生労働大臣記者会見（令和8年2月20日）

1 そもそもRSウイルスとは？

RSウイルスはごく一般的な風邪の原因ウイルスのひとつです。ほとんどの子供は2歳までに一度は感染しますが、健康な子供や大人であれば普通の風邪症状で自然に回復します。

97%

健康な赤ちゃんは入院不要で回復

2~3%

入院が必要なケース

約30人

日本での年間死亡（2歳未満・約140万人中）

2歳未満の子供は約140万人（年間出生数約72万人×2年分）。RSVによる死亡はその中の約30人=0.002%です。

⚠️ 早産児・先天性心疾患・免疫不全など**特定のハイリスク群**では重症化リスクが高くなります。健康な満期産児にとってRSVは「風邪のひとつ」であり、**自然免疫獲得の機会**でもあります。

2 ワクチンの概要

「アブリスボ」は2024年から日本で接種できるようになったRSVワクチン（組換えタンパクワクチン）です。妊娠中に接種することで、お母さんの免疫が胎盤を通じて赤ちゃんに移行し、生後6ヶ月までの重症化を予防する効果が確認されています。60歳以上の方への接種も承認されています。

⚡ **令和8年（2026年）4月から定期接種（原則無料）となる予定です。**

無料化により、十分な情報がないまま接種する方が増える可能性があります。だからこそ今、このリスク情報を知っておいてください。

知らされていないこと① 早産リスク

アメリカの公式添付文書には以下の記載があります：

「接種した妊婦グループでは早産がやや多く見られました（5.7% vs 4.7%）。因果関係は否定できていません」

このためアメリカでは**妊娠32週以降**に限定。日本では**妊娠24週**から可能で、このリスクの記載はありません。

知らされていないこと② グラン・バレー症候群

手足の麻痺・呼吸困難を起こす**可能性のある神経の病気**です。アメリカでは2025年1月に公式警告として追加されました：

「接種後42日以内に発症リスクが高まる可能性（**100万回あたり推定9件の過剰発症、発生率比2.02**）」

日本の添付文書（2025年9月改訂）には**記載されていません**。

知らされていないこと③ 妊娠高血圧症候群リスク

妊娠高血圧症候群とは、妊娠中に高血圧・むくみ・タンパク尿などが現れる状態で、重症化すると母子ともに危険です。米国の大規模調査（13,474例）では：

「接種群では非接種群より妊娠高血圧症候群の発生率が有意に高い（**リスク比1.09~1.12**）」

日本の添付文書には**記載されていません**。

項目

アメリカ (FDA)**日本 (PMDA)**

RSVの位置づけ

一般的な風邪ウイルス

同左

接種可能な妊娠週数

32~36週のみ

24~36週（より早い時期から可）

早産リスクの警告

記載あり

記載なし

GBS（神経疾患）リスクの警告

記載あり（2025年1月追加）

記載なし（2025年9月改訂後も）

妊娠高血圧症候群リスク

米国大規模調査で有意と確認

記載なし

⚠️ コロナワクチンの教訓 — 同じことを繰り返さないために

令和8年2月20日の厚生労働大臣記者会見で、上野大臣は以下の公式数値を認めました：

67,000
件副反応疑い
報告件数**2,302**
件死亡報告数
(副反応疑い)**1,059**
名健康被害救済
認定死亡
(令和7年12月時点)**免責**補償はすべて国費(税金)
ファイザー社は
法的責任を免除

大臣は「全ての報告が完璧に行われているかどうかについてはいろいろなご意見もあろうかと思う」と述べ、**不完全報告の存在を事実上認めました**。ワクチン被害は「人災」であり、自然なウイルスリスクとは本質的に非対称です。コロナワクチンで起きたことが、RSVワクチンで繰り返されないとは言い切れません。

▶ お願いしたいこと**1**

「普通の風邪」に対するワクチンであることを理解した上で、**接種するかどうかご自身で考えてください。**

2

接種を検討している妊娠中の方は、これらのリスクについて担当の産婦人科医に質問してみてください。**お医者さんも知らない可能性があります。**

3

リスクとメリットを知った上で自分で決める権利が誰にでもあります。接種しない選択をした場合も、不利益を受けることはありません。

情報源

- ・アメリカFDA公式添付文書（2025年12月改訂）
- ・日本PMDA公式添付文書（2025年9月改訂）
- ・厚生労働大臣記者会見（令和8年2月20日、上野大臣）

このチラシは公開されている公式文書に基づき作成されたものです。特定のワクチンに反対するものではなく、十分な情報のもとに個人が自律的に判断できることを目的としています。医療上の決定は医師にご相談ください。